熊本における要援護に対する携帯トイレの実情

2017　バリアフリー展レポート

Date

・2017/04/21

講演者

・

Profile

・総合サービス

ミソノという名前の男の人物

聴講時間

・10分

手元資料

・一枚

カタログ

・一枚

・内閣府から日本トイレ対象を頂いた

実情は不衛生な状態であった。

不衛生な状態であると掃除が大切

掃除のトイレを一番初めに必要になる

中に便が詰まる自体が発生する

使用中止にするか仕様を継続するが、便が漏れる

北国である場合、寒いので土を掘ることも難しい。

ウォッシュレットにしても流すことにしても電気が必要になる。

そもそも水を流すためにはモータを使用するので水を流せなくなる。その場合

水を止めるしかない状況になる。

そして

仮設トイレを使用する必要が生まれる。

全部で4種類

携帯トイレ

ポータブルトイレ

仮設トイレ

マンホールトイレ

熊本はどうであったか？

熊本は実際に地震が起きたのは、熊本の牧志町が被害が大きかった。

トイレの被害も大きかった。

県庁までは物資は届く。

そこから先に物資が届かない。

県庁の人は動かない。

末端に物資が届かない

だから、自分たちがやれることはやっておくしか無い

これは、阪神大震災でも、東日本大震災でも同じであった。

車の中で生活される方が多かった。

熊本は仮設トイレをその駐車場付近に設置した。

局所的であったため、割りとすぐに配備されることになった。

これはあれであった。業者が工事現場でよく配備されるものでよく利用されることがあるから配備はされた。

和式にアタッチメントを取り付けて様式に帰ることになった。

なぜかアタッチメントがないと高齢者が用をたすことができなかった。

和式トイレ虹蟹座って用を足していた。介護するひ友も座る場所を用意してやっていた

足を曲げられない人がいたから

トイレを開けっ放しでトイレをしていたから気づいた

和式だと足が曲がらない。

改善腫れたが。まだまだですよという状況。

牧志町の人口は20万人

牧志町3万5000人

大阪市270万人

牧志町でさえ苦労しているけれど

大阪市はだいじょうぶだろうかということを危機意識として持ってほしい。

携帯トイレは個人で用意できるので皆さんで用意していただきたい

解除をされる人も介護される人もいつも使っているものを使用することができる

いつも使っていないものを使うことが大変。

第一に災害は事前の準備をするしかない。

基本的には日常で使っているも

ローリングストックしていきましょう。

場合によっては災害用に多めに用意しておいてください。便器にかぶせるだけで使える

終わったら捨てれば良い。

いつもと同じようにできることが大切。

サニタクリンのトイレ

今のうちに買っておけばだいじょうぶですよという

今のうちにいろいろ試していきましょう。

ぜひやっていただきたいとい言われている。